

疯狂学日语系列 引领日语学习新潮

最新日文报刊选读

サイシン ニ ホンゴ シンブン ドツカイ 最新日本語新聞読解

● 风土与人情

曾绍琼 宋晓真 选编 本城嘉之(特邀) 王大东 主审



广东省语言音像出版社

9 787888 976692 >

ISBN 7-888-97669-8

サイシンニホンゴシンブンドツカイ

最新日本語新聞読解

最新日文报刊选读（第一辑）

风土与人情

曾绍琼 宋晓真 编著

本城嘉之（特邀）王大东 主审

广东省语言音像出版社

最新日文报刊选读（一）

风土与人情

策划：单学力

责任编辑：海姐姐

封面设计：阿 旺

出版发行：广东省语言音像出版社

地址：广州市东华西路 296 号（510100）

编辑部电话：020-83818671

读者服务部：020-83340961 83195846

发行部电话：020-83302252

电子信箱：yyyycbs@163.com

网址：<http://www.gdyy.net>

印刷：广东科普印刷厂

版号：ISRC CN-F30-03-372-00/A.G4

全套定价：26.00 元（录音带版）

28.00 元（CD 版）

もくじ

目次 / 目录

一、風俗と習慣 / 风土与人情

2 アゴヒゲアザラシ

长胡子的海豹

6 故郷ふるさとの川かわ

故乡的河

10 雪上せつじょうの音楽おんがく

雪中的音乐

18 心こころの居場所いばしょ

心之所向

23 緑みどり滴したたる季節きせつ

绿色季节的怀念

27 赤あかれんが

红砖

31 賢かしこい顔かお

睿智的脸

二、社会と経済 / 社会与经济

- 38 こうじちか しんこく とちデフレ をちよくしよ
公示地価・深刻な『土地デフレ』を直視せよ
要正视公开地价・深刻认识“土地通货紧缩”状况
- 44 ゆっくり いそ
「ゆっくり急げ」
慢慢来
- 48 ペルソナ
人格
- 52 こうむいんせいどかいかく
公務員制度改革
公务员制度的改革

三、文化と教育 / 文化与教育

- 58 がくりく
学力テスト
能力测试
- 62 ぶんみんとうせい
文民統制
文官统治
- 66 こいびと
『恋人たち』
《恋人们》
- 70 はる
春
春天
- 74 いちおくそうおく てじたい
“一億総送り手時代”に

身处“一亿人一齐来发言的时代”中

82 「こだわり」に^{こだわ}拘る

拘泥于“拘”

87 釣り^つと狩猟^{しゅりよう}

钓鱼与狩猎

91 企業^{きぎょう}の文化^{ぶんか}は^か変わる

企业文化的转变

95 不自由^{ふじゆう}を知らない^し子供達^{こどもたち}

尚未意识到自身不自由的孩子们

101 「“Japan” を^う売る」

假名出卖了日本

四、科学と技術 / 科学与技术

110 「植物^{しよくぶつ}バイオ」に^{ほんごし}本腰を

切实推动“植物工程研究”

115 I T 鎖^{きこく}国

IT 锁国

121 マイクロソフトが「オフィス^{にせんさん}2003」の概要^{がいよう}を公開^{こうかい}

微软公布“办公软件 2003”的概要

五、医療と健康 / 医疗与保健

126 たばこのリスク Q & A

吸烟危害 Q 与 A

134 SARS ^{かくだい}拡大でアジア向け ^む体温計輸出 ^{きょうぞう}が急増

SARS 蔓延 体温表出口急増

138 ^{じょうず}上手に ^{きんえん}禁煙——^{せいこう}成功のコツは？

成功戒烟的秘诀

145 ^{きび}厳しい ^{せかい}世界、^{あま}甘い ^{にほん}日本

警告表示：严峻的世界与乐观的日本

148 ^{かたた}再び ^{なっとう}納豆

再谈纳豆

157 ^{まめちしき}豆知識（生活小知识）

几则小常识（生活）

一、

風俗と習慣



風土と人情

第1篇

アゴヒゲアザラシ

アザラシにデッキとられしボートかな。^{さいたまけんあさかし}埼玉県朝霞市の
^{あらかわ}荒川べりで、「タマちゃん」ではないかというアゴヒゲアザ
ラシを^み見てきた。

プレジャーボートの^{せんび}船尾の^{たい}平らなところに、あの^{まる}丸い^{からだ}体
を^{よこ}横たえている。いかにも^{あし}足の^{はや}速そうな^{ふね}船が、^{うご}動かずにじ
っとしている^{ようす}様子も、ほほ^え笑ましい。^{きしべ}岸辺で^{けんぶつ}見物する
^{すうひやくにん}数百人は、^{おおごえ}大声をあげることもなく^{しず}静かに^{みまも}見守っている。

^{ときおり}時折、^{とお}遠い^{かみなり}雷のような^{おと}音を^{かわはら}河原に^{ひび}響かせながら、^{でんしゃ}電車が
^{わき}脇の^{てつきょう}鉄橋を^{わた}渡ってゆく。その^{たび}度に、タマちゃんは、あれは
^{なに}何ものかというように^め目を^{ちゆうくう}中空に^{およ}泳がせる。^{たし}確かに、ふる

さの方では見かけない「動物」ではあろう。

ふと、吉村昭さんの新著『漂流記の魅力』（新潮新書）

を思い出す。20代のころ、日本の古い漂流記にとりつかれたという吉村さんは、漂流についての小説を、6編著

してきた。「あらためてよくもこれまで飽きずに書いてきたものだ、われながら呆れてもいる」。

ひとりの作家をこれほど触発し続けたのは、極限状態に置かれた人間の記録の深さと強さなのだろう。鎖国の

時代に、はからずも異国に渡り、未知の世界に触れた人々

は、いわば、未来と出会った人々でもあった。タマちゃん

が電車と遭遇したような驚きを追体験できるのも、

漂流記の持つ魅力の一つだ。

河原のそばから、バスと電車を乗り継いで、東京湾に近

い新聞社へ戻るのに、約1時間半かかった。これだけの大き

な^{へだ}隔^{ひと}たりを、独^{さかのぼ}り^{さかのぼ} 遡^{さかのぼ} っていたのだろうか。「鉄橋^{てつきょう}の^{した}下の
ひとりアザラシ」が、早^{はや}くも、懐^{なつ}かしく思^{おも}い出^だされた。

朝日新聞

参考译文

长胡子的海豹

有报道说，一只海豹被夹在了甲板上。在埼玉县朝霞市的海滨，发现了一只长着胡子的叫“小珠子”的海豹。

在游艇平坦的船尾上，躺着那个圆圆的身躯。它的游水速度快如船，而那一动不动的样子确实招人喜爱。岸边有好几百参观的人，都不敢大声地说话，静静地守护着它。

河原市从远处传来响彻云霄般的雷声，那是电车正在通过横跨的铁桥。这时，小珠子就好奇地抬起头，向天空望一望。的确，这是在老家没见过的“动物”。

突然，我想起了吉村昭的新书《漂流的魅力》（新潮新书出版社）。大约在20年代，就着手日本古老的漂流记的吉村先生，编著了6册漂流记的小说。“一开始写，竟然到了一发不可收拾的地步，连自己都感到惊讶。”

能如此持续地触发一个作家的灵感，是因为他自己对此事的执著和深深地顽强投入。知识封锁的年代，不料漂泊到了异国他乡，那些接触到陌生世界的人，也可称之为与未来相遇的人。由小珠子对电车的隆隆声声产生的好奇，我联想到漂流记所具有的魅力之一。

从河原市的旁边，坐电车和公共汽车，大约需要一个半小时，就可以回到东京湾附近的报社。隔着这么远的距离，它是怎样独自飘泊而来的呢？“铁桥下面那孤独的海豹啊！也早日回家吧。”真是令人浮想联翩。

第2篇

ふるさと かわ
故郷の川

かわというの^{きおく}は記憶のあちこちを^{しげき}刺激する不思議な存在^{ふしぎ}
だ。思い出^{おもいで}のなかの^{かわ}川は何かの^な拍子^{ひょうし}に不意^{ふい}に^{あらわ}現れる。匂い^{にお}、
音^{おと}、感^{かん}触^{しよく}など五感^{ごかん}すべてに^{うった}訴える^{ようそ}要素をもっているから
だろう。とりわけ^{ふるさと}故郷^{かわ}の^{からだ}川は体^{きざ}に^こ刻み込まれた^{きおく}記憶として
^{のこ}残る。

^{みずべ}水^{ざっそう}辺^{はな}の^う雑草^{なまぐさ}の^{みずくさ}鼻^ふを^{さかな}打^おつ^だ生臭^{いし}さ、^{あし}水草^とを^{ころ}踏^{ころ}んで^{ころ}魚^とを^{ころ}追^{ころ}い^{ころ}出^{ころ}
す^{ころ}ときの^{かんしよく}感^{いし}触^{あし}、^とこけ^とむ^とした^と石^とに^と足^とを取^とられて^と転^とんだ^とときの^と
^{しょうげき}衝^{あたま}撃^{あたま}、^{ひび}頭^{ひび}の^{せおん}なか^てで^て響^てき^てや^てま^てない^て瀬^の音^の、^の手^ので^のす^のく^のつ^のて^の飲^の
だ^{みず}水^{みず}の^{あじ}ひん^{あじ}やり^{あじ}した^{あじ}味^{あじ}わい、それらすべてが^{なつ}懐^{おも}かしく^{おも}思^{おも}い
だ^だ出^{ちい}される。小^{かわ}さな^こ川^こだ^こった^こが、子^こども^こたち^こは「^{おおかわ}大^お川^か」と^よ呼^よん

でいた。

おな おおかわ どうきょう したまち そだ あくたがわりゆうのすけ
 同じ大川といっても東京の下町で育った芥川龍之介の
 か 描くそれはまったく違う。「自分はどうして、かうもあの川
 を愛するの。あの何方かと云えば、泥濁りのした大川の
 なまあたか みず かぎ ゆか かん じぶん
 生 暖い水に、限りない床しさを感じるのか。自分ながら
 も、すこ 其説明に苦しまずにはいられない」（「大川の
 みず 水」）といって川への愛着を書き連ねる。

しまぐに やまぐに にほん かわ おお たよう
 島国であり、山国でもある日本の川の多さと多様さは、
 たぶん せかい くつし おも で かわ
 たぶん世界でも屈指だろう。思い出のなかの川はそれこそ
 ひと せんさばんべつ ゆうぜん なが たいりく たいが べつしゆ
 人によって千差万別だ。悠然と流れる大陸の大河とは別種
 かんがい にほん ふうけい
 の感慨をもたらす日本の風景である。

しかし川は変貌する。「川は死んだ」と語るのは
 もがみがわばんか ちょうさ みんぞくがくしや あかさかのりお のぞみぼし
 最上川文化を調査する民俗学者の赤坂憲雄さんだ（『望星』
 ろくがつごう ごがんこうじ せいかつ まも
 6月号）。護岸工事などで生活は守られるようになったが、

生活^{せいかつ}と川^{かわ}とが切断^{せつだん}されてしまった。その認識^{にんしき}から出発^{しゅつぱつ}して

川^{かわ}の再生^{さいせい}を考^{かんが}えねばならない、と。

夏^{なつ}に向けて川^むへの郷愁^{かわ きょうしゅう}が強^{つよ}まる季節^{きせつ}だが、憂^{うれ}いもまた
深^{ふか}い。

朝日新聞

☞ 参考译文

故乡的河

对于江河，人们存在着强烈地不可思议的回忆。记忆当中的江河，总让人感到好像合乎某种节拍似的。那是因为它具有气味、声音、感觉等五官能感触到的因素。尤其是故乡的那条河，令我刻骨铭心，难以忘怀。

水边杂草那扑鼻的草醒味，踏着水草追赶鱼儿的感觉，不小心踩到了长着青苔的石头而跌倒的打击，河滩上那震耳欲聋的哗哗流水声，用手捧起水喝那种消渴的感觉，这一切都令我难以忘怀。那是一条小河，但是，孩子们都称之为“大河”。

虽然是一样的大河，它与在东京的平民街长大的作家芥川龙之介所描写的大河完全不同。他在《大河之水》写道：“自己为何钟爱那条河呢？如有人云，你能在浑浊的河中无尽地感到水的灵性吗？对此自己也有点苦恼。”这表明了他对江河的挚爱。

因为是个岛国，又是个山国，日本的河流多种多样，可以说在世界上是屈指可数的。记忆中的江河，因人而异，千差万别。于是，就形成了与大陆那悠然而流的大河不同的概念，那特别令人感慨的日本风情。

但是，河流是在变化的。调查最上川文化的民俗学家赤坂宪雄在《望星》6月写道：“河死了”。因维护生活，修建了护河堤。但是，这样就割断了生活与江河的联系。由此，我们必须对江河重新认识。

夏季是寄情于江河而思念故乡的季节，也是令人深思的时期。

第3篇

せつじょう おんがく
雪上の音楽

わたし に おえ
私の似顔絵です。

あさ お ふくおか いちめん ぎんせかい わたし きたぐに
朝、起きてみると福岡は一面の銀世界。私には北国での
きんむけいけん
勤務経験がないので、この年になっても、雪が積もると、子
どものようにわくわくします。

ふるさと ながさき さんじゅう に ねん せきせつりょう さかみち うえ
故郷の長崎では 3 2 年ぶりの積雪量とか。坂道の上
いえ しろけい でんわ みち すべ たいへん か もの
に家がある老兄は、電話で「道が滑って大変。買い物にも
くろう
苦労している」と、嘆いています。

かん き だん いち ににちいすわ けはい みち
この寒気団、あと 1, 2 日居座りそうな気配ですから道で
てんとう か ぜ じゅうぶん き
の転倒や、風邪などには十分お気をつけください。

さむ しゅうまつ がいしゅつ
こう寒くなると、週末なども外出がおっくうになりま